

西区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
自然資源を活かした賑わい事業(西区自然観察会 in 共生の森)		西区自治連合協議会「にぎわい・文化のまちづくり」部、堺市西区			
事業目的	事業内容	活動指標	R04		
<p>「水や緑の自然資源を有効に活かす」取り組みとして、西区に生息する生物に直接触れ、取り巻く環境や生態系に対する理解を深めるため、観察会を開催する。事業を通じて、自然環境を活かした「にぎわい・文化のまちづくり」を進めていく。</p>	<p>大阪公立大学 農学研究科の平井規央教授を講師として招き、堺7-3区共生の森の観察会を開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により場所を近隣に変更して実施した。観察会に参加することにより、共生の森周辺の自然環境や生息する生物についての理解を深め、自然環境を大切にするために身近なところから実践できることを学ぶ。</p>	①観察会申込者数	7件(22人)		
		②当日確認できた生物の種類	30種類		
①妥当性		②協働の視点		③インパクト	
○	<p>西区内には、大阪府の管理地である産業廃棄物の処理場を活用した共生の森が存在し、様々な生物が生息している。今回は場所が共生の森近隣に変更になったが、区内の生態系や環境について、区民が興味・関心を持つことにつながるため、妥当性が高い。</p>	△	<p>企画の部分で区民の参加はあったが、当日の運営・準備・調整などは区を主体にして行っている。</p>	○	<p>自然豊かな7-3区周辺に生息する生物や環境について、専門家の知見を学べることは貴重な機会である。</p>
④効率性				○	<p>コロナ禍において共生の森での開催が難しい中、観察地の変更を行ったことで、事業参加が可能になった。また現地集合にすることで参加者の利便性も高まり、効率の良い運営ができた。</p>
⑤自立発展性		総合評価			
△	<p>専門家や大阪府との調整など、区民が自立して取り組むことが困難な部分も多く、今後も区民と行政が協働して実施していくことが望ましい。</p>	○	<p>昨年度はコロナ禍の影響によりオンライン形式になった「西区自然観察会 in 共生の森」の継続事業として、実際に現地に赴いて生物に触れる「観察会」を開催した。共生の森から観察地を変更したが、普段あまり立ち入ることのない共生の森周辺を取り巻く環境や生息する生物について知る貴重な機会となった。今後も、西区の自然資源を活用し、にぎわい・文化のあるまちづくりを進めていきたい。</p>		
今後の方向性(課題、改善提案等)					
<p>拡充 継続 見直し 廃止</p>	<p>今回も昨年度に引き続き広報紙と西区ホームページのみで、観察会の参加募集・周知を行った結果、定員には達したが前回の申込者より減少した。幅広い年代の方から申込があったが、前回からの応募者の方も複数みられたため、今後の事業実施に向け、新たな参加者の開拓が必要と考える。また、今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当初計画していた共生の森から風車ひろば周辺に観察地を変更したが、普段見られない昆虫が採集できたことや専門家から詳しい解説を行うことにより、地域住民の方に区内の生態系や環境について知ってもらえる機会になったと考える。これからも次代を担う子ども達等に西区の野原の昆虫・野鳥や水辺環境など、幅広く西区の生物について理解を深める場を創出したい。</p>				